

鹿兒島県から得られたヒメ科エソダマシ *Aulopus damasi* の記録畑 晴陵¹・伊東正英²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 鹿兒島大学総合研究博物館 (水産学部)² 〒 897-1301 鹿兒島県南さつま市笠沙町片浦 2-6772³ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 鹿兒島大学総合研究博物館

■ はじめに

ヒメ科魚類 Aulopidae は世界で 2 属約 10 種が知られており (Nelson, 2006), 日本近海にはエソダマシ *Aulopus damasi* Tanaka, 1915, イトヒキヒメ *A. formosanus* Lee and Chao, 1994, ヒメ *A. japonicus* (Günther, 1877), ハタタテヒメ *Aulopus* sp. の 4 種が分布する (Nakabo, 2002; 松沼ほか, 2008).

Aulopus damasi は伊豆沖から採集されたとされる全長 330 mm の 1 標本に基づき Tanaka (1915) によって新種記載され, 同時に和名エソダマシ (狗母魚欺) が提唱された。その後, 山川 (1984) は沖縄近海の水深 250–508 m から採集された本種 5 個体 (HUMZ 48382, 95119, 95120, BSKU 53000, URM-P 3787, 体長 153–257 mm) を報告し, 益田ほか (1988) は本種 3 個体を沖縄本島近海から, 山川 (2002) は高知県土佐清水から, 山田ほか (2007) は宮古島北方の大陸斜面上から 1 個体 (SNFR 152, 体長 310 mm) をそれぞれ報告した。したがって, 現在エソダマシの国内における分布は, 伊豆沖, 高知沖, 沖縄近海, 東シナ海とされている (Nakabo, 2002; 山田ほか, 2007)。

2011 年 11 月 20 日に鹿兒島県南さつま市坊津沖で, エソダマシと同定される 1 個体が採集された。本標本は鹿兒島県におけるエソダマシの標本

に基づく初めての記録となるため, ここに報告する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) と Prokofiev (2008) にしたがった。標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。エソダマシの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿兒島県産の 1 標本 (KAUM-I. 43848) のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は, 鹿兒島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り。BSKU—高知大学理学部海洋生物学研究室; HUMZ—北海道大学総合博物館; KAUM—鹿兒島大学総合研究博物館。

■ 結果と考察

Aulopus damasi Tanaka, 1915

エソダマシ (Fig. 1; Table 1)

Aulopus damasi Tanaka, 1915: 340, pl. 92, fig. 295 (type locality, off Izu, Japan).

標本 KAUM-I. 43848, 体長 313.2 mm, 鹿兒島県南さつま市坊津沖 (31°11'15"N, 130°06'86"E), 水深 250 m, 2011 年 11 月 20 日, 釣り, 宮下 透。

記載 計数形質と体各部の体長および頭長に対する割合 (%) を Table 1 に示した。体は細長い円筒形で, 頭部はやや縦扁する。吻は突出し, 吻長は頭長の 35.7% で眼径よりも長い。眼は頭

Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2012. First record of *Aulopus damasi* (Aulopiformes: Aulopidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 38: 9–11.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Aulopus damasi*. KAUM-I. 43848, 313.2 mm SL, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan.

長の19.8%と大きく、わずかに上外廓を越えて突出する。両眼窩は頭長の15.6%で眼径より短く、深く凹む。口裂は大きく、わずかに傾斜し、上顎後端は瞳孔後縁直下に達する。上顎は下顎よりわずかに突出する。背鰭は第1軟条のみ分岐せず、背鰭第1軟条の長さは頭長の18.4%。背鰭第2軟条の長さは頭長の36.5%。背鰭では第3軟条が最も長く、その長さは頭長の39.8%。背鰭起部は腹鰭基底後端より後ろに位置する。背鰭基底は長く、臀鰭基底の266.4%。臀鰭は第1軟条のみ分岐せず、臀鰭第1軟条の長さは頭長の14.4%。臀鰭第2軟条の長さは頭長の20.4%。臀鰭では第3軟条が最も長く、その長さは頭長の21.3%。臀鰭起部は背鰭基底後端よりも後方に位置する。胸鰭は臀鰭よりも短く、後方に向かい尖り、第4軟条が最も長い。胸鰭第1及び第2軟条は分岐しない。胸鰭では第4軟条が最も長く、その長さは頭長の44.3%。腹鰭は短く、先端は臀鰭起部に達しない。腹鰭第1軟条は分岐しない。腹鰭では第4軟条が最長で、その長さは頭長の62.9%。尾鰭後縁は湾入するが、深くはない。脂鰭がある。尾柄は長く低く、尾柄高は尾柄長の35.3%。

色彩 生鮮時の色彩—頭部、体背面および体側面の鱗の外縁は赤褐色で、中央は黄褐色。体腹面は一様に白色。眼窩前縁から瞳孔前縁にかけて黒斑がある。背鰭の各軟条は赤色であるが、白色斑が1-4個ある。背鰭の鰭膜は白色であるが、背

鰭第6軟条より後方では赤みを帯びる。臀鰭各軟条は白色。臀鰭の鰭膜はほぼ赤褐色であるが、基底部付近は白色。尾鰭の各軟条は赤色であるが、白色斑が1-4個あり、基底部は白色。胸鰭各軟条は赤褐色で、白色斑が2-3個ある。胸鰭の鰭膜は透明。腹鰭各軟条は赤褐色であるが、前縁は白色。腹鰭の鰭膜は一様に赤褐色。

固定後の色彩—頭部、体背面および体側面の鱗は一様に紫褐色となる。各鰭の鰭膜は無色透明となる。背鰭軟条、胸鰭軟条および尾鰭軟条は紫褐色となる。

分布 日本国外ではオーストラリア・クイーンズランド州のグレートバリアリーフおよびマリオンリーフ沖 (Hoesel et al., 2006)、台湾 (Kao and Lin, 1986) から知られる。国内では伊豆沖 (Tanaka, 1915)、高知県 (山川, 2002)、鹿児島県 (本研究)、沖縄本島近海 (益田ほか, 1988)、東シナ海 (山川, 1984; 山田ほか, 2007) から標本に基づいて記録されている。

備考 本標本は、吻長が眼径より長いこと、背鰭軟条数が14であること、側線有孔鱗数が35であることなどの特徴において山川 (1984) や Nakabo (2002) などが報告した *A. damasi* の標徴とよく一致した。日本産の同属他種とは、吻長が眼径より長いこと、背鰭軟条数が14であること、側線有孔鱗数が35-37であることから容易に識別される (Nakabo, 2002)。

エソダマシの鹿児島県での採集記録は、これまでの国内における本種の分布の空白域を埋めるものであり、本種が伊豆沖から沖縄県にかけて連続的に広く分布することを示唆する。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、高知大学理学部の片山英里氏には文献情報を頂いた。笠沙町の宮下 透氏には貴重な標本を寄贈して頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの原口百合子氏、西 大樹氏、大石一樹氏、鹿児島大学水産学研究所の山下真弘氏、吉田朋弘氏ならびに西山 肇氏には、標本の作製や登録の協力を頂いた。鹿児島大学連合農学研究所の荻原豪太氏、松沼瑞

樹氏ならびに目黒昌利氏には本原稿に対し適切な助言を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト（浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る）」の一環として行われた。

■ 引用文献

Table 1. Counts and proportional measurements of *Aulopus damasi* from Kagoshima Prefecture, Japan.

	KAUM-I. 43848
Standard length (SL; mm)	313.2
Counts	
Dorsal-fin rays	14
Anal-fin rays	9
Pectoral-fin rays	12
Pelvic-fin rays	9
Branched caudal-fin rays	17
Scales on lateral line	35
Scales above lateral line	3½
Scales below lateral line	4
Gill rakers (upper + lower)	7+12
Measurements (% SL)	
Body depth	19.7
Body width	16.5
Predorsal-fin length	44.2
Preadipose-fin length	82.7
Prepectral-fin length	103.2
Prepelvic-fin length	37.2
Preanal-fin length	76.9
Dorsal-fin base length	22.5
Anal-fin base length	8.4
Longest dorsal-fin ray length	13.5
Pectoral-fin length	16.7
Pelvic-fin length	27.5
Caudal-peduncle length	24.8
Caudal-peduncle depth	8.8
Head length	33.9
Measurements (% head length)	
Snout length	35.7
Orbital diameter	20.9
Eye diameter	19.8
Interorbital width	15.6
Upper-jaw length	50.1

- Hoesel, D. F., D. J. Bray and J. E. Gates. 2006. Aulopidae. Pp. 463–465. In D. F. Hoesel, D. J. Bray, J. R. Paxton, G. R. Allen (eds.). Zoological Catalogue of Australia. Vol. 35. Fishes. CSIRO Publishing, Melbourne.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Bull. Cranbrook Inst. Sci., 26: i-xi + 1–186.
- Kao, H. -W. and W. -W. Lin. 1986. Seven new records of fishes from Taiwan. J. Taiwan Mus., 39: 75–81.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫, 1988. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚改訂版. 東海大学出版会, 東京. 382 pp.
- 松沼瑞樹・目黒昌利・荻原豪太・本村浩之, 2008. 鹿児島県から得られたイトヒキヒメ *Aulopus formosus* (ヒメ科, ヒメ属) とその標徴に関する新知見. 生物地理学会会報, 63: 71–79.
- Nakabo, T. 2002. Aulopidae. Pp. 349, 1482. In T. Nakabo (ed.). Fishes of Japan with pictorial keys to the species. Tokai University Press, Tokyo.
- Nelson, J. S. 2006. Fishes of the world. 4th ed. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken, pp. 601.
- Prokofiev, A. M. 2008. A new species of genus *Aulopus* from waters of Vietnam (Myctophiformes. S. lato: Aulopidae). J. Ichthyol., 48: 134–137.
- Tanaka, S. 1915. Figures and descriptions of the fishes of Japan including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile Islands, Korea, and southern Sakhalin. Figures and descriptions of the fishes of Japan, 19: 319–342, pls. 91–95.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次, 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. lxxiii + 1262 pp.
- 山川武, 1984. エソダマシ. Pp. 160–161. 岡村 収・北島忠弘 (編). 沖縄舟状海盆および周辺海域の魚類 I. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 山川武, 2002. エソダマシ. P. 109. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 日本の海水魚. 第3版. 山と溪谷社, 東京.